



学校だより

～立花小学校は令和5年3月に創立150周年を迎えました～

たちばな

2023年8月25日

尼崎市立立花小学校
校長 植木 加代子

みんなは一人のために 一人はみんなのために「ウェルビーイング」

ようやく学校に子どもたちの歓声が戻ってきました。夏の間、子どもたちを育み見守っていただきありがとうございます。この夏は酷暑に加え、兵庫を縦断した台風7号等もありました。身近な方が被災された方にお見舞い申し上げますとともに、子どもたちのいのちが輝く今日を迎え心より嬉しく感じるスタートです。

今年度の2学期は体育大会や音楽会などの行事に加え、150周年を祝う行事や式典も開催されます。子どもたちは行事で大きく育ちます。思い出を作りながらぐんと成長するチャンスであり、たとえ過程でうまくいかなかったり失敗したりしても、次は頑張るぞと切り替えて進むチャンスがやってきます。子どもがシュンとしたときのご家庭の愛の力には、かなうものはありません。子どもはやはり保護者の方に話を聞いてもらい、温かいご飯を食べ、よく眠り、そして力いっぱい頑張る姿を見てもらって、ほめて励ましてもらうことでキラキラと輝きます。洗濯やお茶の準備などお世話を多くおかけしますが、ご支援をよろしく願います。学校も「チーム立花」として職員が一つになり、誰ひとり見放さない学校として、全体で子どもたちの学習や成長をみてまいります。2学期はじめは特に、子どもの心がデリケートな時期でもあります。専門家や関係機関とも平素より子育て応援団としてチームに加わっていただいています。気軽に相談していただける場所が保護者の方にも用意されています。2学期も「こどもまんなか」で進んでいきましょう。

さて、多様性が大きく取り上げられている今、本校がコミュニティ・スクールに移行し2年目を迎えていることは、よいタイミングなのではないかと思えます。学校を核として地域ぐるみで子どもたちを見守る仕組みを整える中でお世話をおかけする一方、大人にとっても生涯学習やつながる機会になればいいなと考えます。立花小HAPPY ネット活動、PTA活動もその一環としています。立花幼稚園、大西保育所、わくわく保育園との幼保小連携活動や、トライやるウィーク等の立花中学校との小中連携など、すでに世代を超えてつながっています。地域の中で子どもも大人も声を掛け合い、だれも孤立することなく幸せが広がればと願いつつ教育活動を進めていきたいと思えます。

夏休み、教員は研修や行事の準備にも勤しんできました。「令和の日本型教育」は個別最適な学びと協働的な学びの両輪で進めるものですが、これからの教員の立ち位置は、例えると、俳優として力を磨いてきたところ、プロデューサーへ転身せよと宣言されたような感覚でもあります。「こどもまんなか」で主体性を生かすということは、わがまを認めるということではありません。思いやりをもって互いを尊重し、誰もが困り感やアイデアを安心して表現することができ、他者の多様な困り感やアイデアを受け止めるしなやかさを磨くこと、そして、皆が心地よく生活するにはどうしたらいいのかを進んで考え行動する試行錯誤ができる場が学校だと考えています。

「ウェルビーイング」も今の重要なキーワードです。教育再生会議では「一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せ(Well-being)の実現を目指し、学習者主体の教育の転換」と提言されています。まずは「みんなは一人のために、一人はみんなのために」を意識していきたいと思えます。「チーミング」という言葉にも感銘を受けました。ある研究によると、ミスを連発したり空振りが多かったりするチームほど、最終的に良いパフォーマンスが発揮できるようになるということです。昭和や平成時代に培った価値観の方向変換をすることは決して容易ではありませんが、令和に育つ子どもたちの吸収は早く、たくましいものがあります。愛情や相互リスペクト、感謝は今も昔も未来も不易です。教室には電子黒板も入りました。新しい時代は着々と進んでいます。

2学期もどうぞよろしく願います。